

社会福祉法人むつみ福祉会

平成 28 年度 事 業 報 告 ~~(案)~~

平成29年5月23日 第164回理事会承認
平成29年6月12日 第98回評議員会承認

【社会福祉法人むつみ福祉会】法人基調報告

1 はじめに

平成 28 年度は、法人全体の 8 事業すべてにおいて大きな事故もなく、滞りなく運営ができた 1 年であった。8 事業とも限られた職員数での運営状況のなかで、職員個々がそれぞれの役割を全うし、安心で安全な環境提供を最優先しながら利用者支援ができたと評価できる。

また 28 年度は、次年度以降の新たな事業展開をが提案され考える年度にもなり、むつみグリーンハウスに通う利用者のためのグループホームをはじめ、名古屋市内の他地域での拠点作りなど、具体的な提案や意見も出された。今後は事業計画に則り、順序を考えながら展開を目指すことが確認された。

この流れのなかで、中区障害者基幹相談支援センター(中区大須四丁目)に併設する事業として、精神障害者地域生活支援事業(I型)の「あかもん」の開設準備が整い、平成 29 年 4 月より事業が開始できることになった。

2 平成 28 年度の主な動き ~社会福祉法改正に絡む法人の動向~

今年度から部分施行されていた改正社会福祉法が平成 29 年 4 月 1 日より完全施行となる。その準備として、平成 28 年度下半期は特にその事務手続きや準備に追われる半年であった。

「事業運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」、「地域における公益的な取組を実施する責務」、「行政関与の在り方」と大項目にまとめられたポイントに沿って、平成 29 年度からは、定款をはじめ、役員・評議員の役割やあり方などが大きく変更されることとなる。

「愛知県重症心身障害児(者)を守る会」の理念を具現化する法人としての役割を継承しながら、社会福祉法人に新たに課せられた役割と期待、時代の要請に応えられる法人運営を行なうことを再認識した 1 年であった。

3 各事業の基調報告

【むつみグリーンハウス】

特別支援学校新卒者の 3 名と利用契約をすることができた。また、昨年度に引き続き年度途中の利用契約者も増えたため、退所者はいたものの利用率は微増という結果となった。近年は大小さまざまな障害福祉サービス事業所が増えており、高校 1 年生などの低学年時からの進路・利用相談に積極的に取り組む必要があると思われる。

普段の作業や取り組みについては、安心と安全を最優先しながら積極的に取り組むことができた。また普段の取り組み以外の新規プログラムやイベントの提案もあり、28 年度も充実した 1 年となった。

3F(作業型)利用者の中から希望者を募り、1 泊旅行を企画し実行した。余暇・レクリエ

ーション的要素が強かったものの、食形態の確認や服薬の管理、入浴・排泄時の ADL の保持や就寝時の様子など、利用者の終日の生活スタイルを把握できるよいきっかけとなった。

【なごみ居宅サポートセンター / なごみ移動サポートセンター】

居宅支援事業「なごみ居宅サポートセンター」と移動支援事業「なごみ移動サポートセンター」は、地域生活を願う利用者様に相談・利用しやすい環境を作ることに努めた。また好評の「集団外出」の企画もさらに内容を吟味し充実させた。

登録ヘルパーはやや減少し、今年度も法人内の他事業部門の兼務職員に手伝ってもらつた。外部への募集活動は、例年の活動に加え郵便局へのポスター掲示(期間指定、有料)など新たな試みも行なったが大きな改善にはつながらなかつた。新たな提案が改善には結びつかなかつたものの、今後も新たな方法の提案・実践に取り組む必要がある。

【障害者相談センター歩】

1名体制の事業所が多い中、今年度も2名体制での業務となつた。煩雑になりがちな業務の平均化を図れ担当職員の精神的な負担の軽減が図れたことは大きいが、2名がそれぞれの業務に追われることが多い、複数体制での情報共有・連携については更なる努力と意識改革が必要であることが課題となつた1年であった。

【中区障害者基幹相談支援センター】

全体の相談状況としては「福祉サービスの利用などに関する支援」の相談内容が一番多く、また精神障害の方の相談が多かったこともあり「不安の解消・情緒安定に関する支援」の伸びが顕著であった。また、毎月の相談者数の内、新規相談の約50%が精神障害という状況であった。

こうした現状を踏まえ、精神障害に対する専門的な対応が行なえるような体制確保の為、「鶴舞メンタルクリニック」とスーパーバイズ契約を今年度も継続し、相談支援の強化に努めた。

平成28年度下半期は、精神障害者地域活動支援事業の開所に向けての準備に多くの時間を費やした。名古屋市から提示されたスケジュール自体が年明けの1月以降に急ピッチに進める内容になっており、4月開所に向けて3か月未満の準備期間であった。結果、登録許可は3月になつていただくことができたが、4月開所の半月前という煩雑さであった。

【名古屋市重症心身障害児者施設(ティンクルなごや)】

年度末に稼働率100%に近づけることを目標としたが、新規入所希望者が少なかつたことなどが原因で約60%の稼働率にとどまった。

運営2年目をむかえ、運営方針や個別支援計画の立案など、多職種によるカンファレンスの定期化を図ることを心掛けた。その過程においては多職種の各レベルでのコミュニケーションや共通理解の困難さが課題として挙げられ、今後も引き続きこの課題に取り組む必要性を再認識することとなった。また、利用者の「生活の充実」のためのイベントの企

画や保護者会との協力など、ソフト面の基盤作りにも着手した。

4 事業の実施状況 (*在籍者数は平成 29 年 3 月 31 日現在)

(1) 第一種社会福祉事業

① 医療型障害児入所施設

「名古屋市重症心身障害児者施設」(定員 90 名)(在籍 6 名)

* 名古屋市北区平手町一丁目 1-5

(2) 第二種社会福祉事業

① 生活介護

「むつみグリーンハウス」(定員 60 名)(在籍 70 名)

② 居宅介護、重度訪問介護、同行援護及び行動援護

「なごみ居宅サポートセンター」

③ 移動支援

「なごみ移動サポートセンター」

④ 計画相談支援、障害児相談支援

「障害者相談センター一歩」

* 以上 4 事業は、名古屋市中区古渡町 9-18

⑤ 療養介護

「名古屋市重症心身障害児者施設」(定員 90 名)(在籍 45 名)

⑥ 短期入所

「名古屋市重症心身障害児者施設」(定員 90 名)

* 以上 2 事業は、名古屋市北区平手町一丁目 1-5

⑦ 計画相談支援、障害児相談支援、地域移行支援及び地域定着支援

「名古屋市中区障害者基幹相談支援センター」

* 名古屋市中区大須四丁目 10-85

5 理事会の運営状況(*平成29年3月31日現在の情報で作成)

- (1)平成28年10月に改選され、全員が重任となった。
- (2)本期の任期は、法改正により平成29年4月1日以降の最初の定時評議員会終結の時までとされた。
- (3)理事長には野瀬理事が互選され就任した。
- (4)理事及び監事（理事10名、監事2名 敬称略）

役職	氏名	主な所属先・職業など	任期
理事長	野瀬武敬	全国指定都市子ども会連合会長	平成28年10月21日～29年4月1日以降の最初の定時評議員会終結の時まで
理事	富田偉津男	専務理事、税理士	同上
理事	松田昌久	副理事長、愛知県重症心身障害児(者)をする会 会長	同上
理事	原山剛三	弁護士	同上
理事	山田正人	名古屋市重症心身障害児者施設 診療部長	同上
理事	磯部育義	金山橋連合商店街振興組合理事長	同上
理事	木村智明	正木学区区政協力委員長	同上
理事	二村眞秀	名古屋市重症心身障害児者施設 院長	同上
理事	牧坂浩之	むつみグリーンハウス 施設長	同上
理事	柴田詩子	むつみ福祉社会(中区拠点事業所) 統括主任	同上
監事	尾崎秀明	税理士	同上
監事	熊崎正実	福祉専門学校校長	同上

(5)理事会の開催状況

156回	H28.5.24(火)	18:00-19:40	1. 平成27年度社会福祉法人むつみ福祉社会事業報告書 (案)について 2. 平成27年度社会福祉法人むつみ福祉社会決算報告について 3. 名古屋市重症心身障害児者施設の入札結果承認と 契約承認(事後)について 4. 名古屋市重症心身障害児者施設の就業規則の変更 について 5. むつみグリーンハウス契約職員就業規則の変更について
157回	H28.10.18(火)	18:00-19:05	1. 社会福祉法人むつみ福祉社会役員(理事・監事)の同意 について 2. 社会福祉法人むつみ福祉社会評議員の選任について 3. 社会福祉法人むつみ福祉社会理事長の互選(予選)並び に理事長の職務代理の指名について 4. 社会福祉法人むつみ福祉社会育児・介護休業等に関する規則の変更について

			<p>5. 名古屋市重症心身障害児者施設の就業規則、臨時職員就業規則の改定について</p> <p>6. 名古屋市重症心身障害児者施設の託児施設開設準備について</p>
158回	H28.10.26(水)	18:00-18:20	1. 特別会計口座の解約について
159回	H28.12.7(水)	16:30-17:50	<p>1. 中区基幹相談支援センターの移転について</p> <p>2. 地域活動支援事業の運営・事業所開設について</p>
160回	H29.1.6(金)	18:00-19:10	<p>1. 社会福祉法人むつみ福祉会定款変更について</p> <p>2. 社会福祉法人むつみ福祉会評議員選任・解任委員会運営規則の承認、並びに同委員会委員の選定について</p> <p>3. 名古屋市重症心身障害児者施設の院内保育施設を運営する業者の選定、契約等について</p> <p>4. 愛知県セルフセンター特別会費の協力について</p>
161回	H29.1.27(金)	17:30-17:55	<p>1. 新評議員候補者の推薦について</p> <p>2. 名古屋市重症心身障害児者施設における調剤支援システムの増設計画について</p>
162回	H29.3.27(月)	18:00-19:10	<p>1. 社会福祉法人むつみ福祉会平成 29 年度事業計画(案)について</p> <p>2. 平成 29 年度社会福祉法人むつみ福祉会予算(案)について</p> <p>3. むつみグリーンハウス就業規則の変更について</p> <p>4. むつみグリーンハウス給与規程の変更について</p> <p>5. むつみグリーンハウス給与表の変更について</p> <p>6. 名古屋市重症心身障害児者施設 就業規則の変更について</p> <p>7. 名古屋市重症心身障害児者施設 給与規程の変更について</p> <p>8. 弁護士との顧問契約について。</p> <p>9. 各事業の運営規程の変更について</p> <p>10. 名古屋市重症心身障害児者施設における調剤支援システムの増設計約の承認について</p>

6 評議員会の運営状況(*平成29年3月31日現在の情報で作成)

- (1)平成28年10月に改選され、全員が重任となった。
- (2)本期の任期は、法改正により平成29年3月31日までとされた。
- (3)評議員(21名 敬称略)

役職	氏名	主な所属先・職業など	任期
評議員	福村真紀子	学校法人事務長	平成28年10月21日～29年3月31日
評議員	松島清子	地域、元正木女性会会長	同上
評議員	野村敬子	短期大学准教授	同上
評議員	栗田和典	株式会社チュ～オ～社長	同上
評議員	羽山純	名古屋市重症心身障害児者施設事務部長	同上
評議員	濱野好子	名古屋市重症心身障害児者施設療育部長	同上
評議員	増山民造	愛知県重症心身障害児(者)を守る会	同上
評議員	加藤和雄	地域、中区子ども会連合会副会長	同上
評議員	丸山秀樹	地域、福祉事業経営者	同上
評議員	西澤有子	地域、正木学区主任児童委員	同上
評議員	浅井清正	地域、総務省行政相談員	同上
評議員	長野友里	臨床心理士	同上
評議員	尾関智	中区社会福祉協議会事務局長	同上
評議員	仲一幸	中区障害者基幹相談支援センター	同上
評議員	山田崇統	なごみ居宅・移動サポートセンター	同上
評議員	戎弘志	福祉専門学校・大学教員	同上
評議員	早川弘子	愛知県重症心身障害児(者)を守る会	同上
評議員	小柳志津代	保護者	同上
評議員	清水努	愛知県重症心身障害児(者)を守る会	同上
評議員	上江洌真由美	株式会社コマゼン代表	同上
評議員	田中巖	橘学区民生委員・児童委員	同上

(4)評議員会の開催状況

94回	H28.5.24(火)	15:30-16:55	1. 平成27年度社会福祉法人むつみ福祉会事業報告報告 (案)について 2. 平成27年度社会福祉法人むつみ福祉会決算報告について 3. 名古屋市重症心身障害児者施設の就業規則の変更について 4. むつみグリーンハウス契約職員就業規則の変更について
95回	H28.10.18(火)	16:00-16:45	1. 社会福祉法人むつみ福祉会役員(理事・監事)の選任について 2. 社会福祉法人むつみ福祉会育児・介護休業等に関する

			<p>する規則の変更について</p> <p>3. 名古屋市重症心身障害児者施設の就業規則、臨時職員就業規則の改定について</p> <p>4. 名古屋市重症心身障害児者施設の託児施設開設準備について</p>
96回	H29.1.6(金)	16:00-17:20	<p>1. 社会福祉法人むつみ福祉会定款変更について</p> <p>2. 社会福祉法人むつみ福祉会評議員選任・解任委員会運営規則の承認、並びに同委員会委員の選定について</p> <p>3. 名古屋市重症心身障害児者施設の院内保育施設を運営する業者の選定、契約等について</p> <p>4. 愛知県セルフセンター特別会費の協力について</p>
93回	H29.3.27(月)	15:00-16:45	<p>1. 社会福祉法人むつみ福祉会平成 29 年度事業計画(案)について</p> <p>2. 平成 29 年度社会福祉法人むつみ福祉会予算(案)について</p> <p>3. むつみグリーンハウス就業規則の変更について</p> <p>4. むつみグリーンハウス給与規程の変更について</p> <p>5. むつみグリーンハウス給与表の変更について</p> <p>6. 名古屋市重症心身障害児者施設 就業規則の変更について</p> <p>7. 名古屋市重症心身障害児者施設 紙与規程の変更について</p> <p>8. 弁護士との顧問契約について</p> <p>9. 各事業の運営規程の変更について</p> <p>10. 名古屋市重症心身障害児者施設における調剤支援システムの増設契約の承認について</p>

7 監査

今年度は社会福祉法人指導監査(社会福祉法第56条第1項に基づく一般監査)があった。会計管理項目で事務処理ミスの指摘が1つあったのみで、指摘された内容についてはすでに改善報告書を提出し受理していただいている。

【生活介護事業所 むつみグリーンハウス】事業報告

1、総論

むつみ福祉社会の理念である「どんな重度障がい者にも自立がある」「どんな重度障がい者も成長し続ける自立がある」「地域生活支援のあり方を追求する」を念頭に、日中活動型(2F)・作業型(3F)それぞれの取り組みを計画・実践した。

障害福祉サービスとして事業を展開していくにあたり、利用者のニーズをしっかりと把握した上で実践できるよう、家族や利用者の面談、個別支援計画の見直しを計画的に行なうことができた。

生活介護事業は、利用者の利用日数が生活介護事業の収入に直結するシステムとなっている。そのため、昨年度に引き続き、長期休みの利用者へのニーズの再確認や休みがちの利用者への利用の呼びかけを積極的に行なうなど、利用率が下がらない工夫をした。また、受け入れの余裕があらかじめ判った時や利用者から新たな利用希望のニーズがあった時などは、できるだけ期待に応えられるよう心掛けた。

結果、退所する利用者が5名いたものの、新たに6名の利用者の受け入れを行なうことができ、年間の利用人数も微増ではあるが全年度を上回った。

日中活動型(2F)は1日平均利用人数（土曜開所を除く）18.7名、作業型(3F)は1日平均利用人数（土曜開所を除く）26.8名であった。日中活動型(2F)は定員20人に近い利用率となり、作業型(3F)は定員40人に対してまだ余裕がある結果となった。

【参考：直近3年度の延べ利用日数】

	平成26年度 (266日開所)	平成27年度 (268日開所)	平成28年度 (269日開所)
2F	4,681	4,521	4,718
3F	6,727	6,652	6,739
合計	11,408	11,173	11,457

【参考：直近3年度の利用登録者数(*いずれも当該年度の3月末時点での人数)】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
2F	36	33	34
3F	34	37	36
合計	70	70	70

2、作業型(3F)

1) 作業

既存の作業に加えて新たな作業を引き受けるなど、1年を通して安定した作業量を利用者に提供することができた。既存の作業が安定して提供できていることで、作業能力や作業効率も徐々にではあるが向上している。また完成品の納品やアルミ缶回収など、作業を通して外出する機会も増えて地域との繋がりや社会参加していることを利用者が実感することができた。

新規の作業が増える一方で、単価の低い作業や納期などの条件が厳しい作業などは、今後見直しを行なっていく必要がある。また、利用者個々の加齢や障害程度の進行により、これまでできていた作業ができなくなり始めている現実もあり、今後は利用者に合う作業、合わない(合わなくなってしまった)作業の整理も必要であろう。

2) 行事・取り組み

毎週火曜日に取り組み（カラオケ、ゲーム、身だしなみ、体操など）を行ない、作業以外の個々のニーズに対応することができた。また、年間を通して季節行事（納涼祭、運動会、忘年会、新年会など）を企画して実践することもできた。作業以外の取り組みの充実は、利用者のモチベーションに繋がっており、この企画を楽しみにむづみに来所する利用者も増えてきた。

また今年度は、約10年ぶりに一泊旅行を企画して実行できた。利用者にとっても魅力ある活動となったりし、職員も利用者の障害の状態の把握、「生活をする上で必要な支援は何か」を再確認できるよい機会となった。

3) その他

利用者、家族の高齢化により親亡きあと生活も考え平成31年を目指としたグループホーム設立に向け個々の聞き取りや職員での勉強会、打ち合わせを行ってきた。29年度から設立までの3年計画を作成し、進めていく。

【参考：直近3年度の仲間の平均工賃】(単位：円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総売上	2,450,249	4,479,174	5,123,321
工賃	1,848,190	1,801,340	2,922,771
1人当たりの平均	46,000	51,460	74,940

3、日中活動型(2F)

1) 日々の日中活動

普段の取り組みは安心・安全に重点を置き、個々の利用者の状態やニーズに応じたメリハリのあるプログラム（午前は活動的、午後はリラックス）を設定した。特に午後のプログラムでは、医師・理学療法士・サービス管理責任者・担当職員とで連携してリハビリ計画書を作成し、個々の障害を把握した体操の提案につなげることができた。こうした工夫が功を奏し、障害が重い利用者や医療ケアの必要な利用者も大きな事故もなく無事過ごすことができた。

2) 行事・取り組み

季節行事（正月遊び、バレンタイン調理など）やイベント（納涼祭、BBQ、運動会、クリスマス会など）を毎月のように企画し、実践することができた。イベントや行事では、「季節を感じることができる」、「いつもと違う雰囲気や環境がよい刺激につながっている」と利用者や保護者からも好評であった。

4、嘱託医との連携

月に1度の診察を提供することができ、利用者の状況の把握に努めることができた。

インフルエンザやノロウィルスなど、季節的に流行が予見できる病気に対する注意喚起や予防の啓発を積極的に行なってもらい、本年度も流行性の病気で休む利用者は少なかった。

5、入所者・退所者

特別支援学校からの新卒者3名の受け入れ以外にも中途利用の方を3名受け入れることができた。

一方、退所者は、ほかのサービス利用(主に入所施設利用)のための退所理由が最も多いかった。また、残念ながら亡くなられた利用者も昨年度に引き続き1名いた。

① 入所者

- 2階～平成28年 4月 男性1名
平成28年 4月 男性1名
平成28年 7月 女性1名
平成28年 12月 女性1名
- 3階～平成28年 4月 男性1名
平成28年 4月 男性1名

② 退所者

- 2階～平成28年 11月 女性1名

平成 28 年 12 月 男性 1 名
平成 29 年 1 月 女性 1 名
平成 29 年 3 月 男性 1 名
• 3 階～平成 28 年 10 月 男性 1 名

【なごみ居宅サポートセンター】事業報告

1、総論

事業を展開していくにあたり、『安心・安全なサービス』を心掛けながら、名古屋市内に住んでいる障がい児・者が住み慣れた地域で安心した日常生活を営むことができるよう、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に規定する指定障害者福祉サービス【居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護】を行なった。

むつみ福祉会の理念の一つでもある「重度の障がい者の地域生活支援のあり方を追求する」を念頭におき、新たなサービス利用等の相談を円滑に行なえるように取り組むとともに、地域生活の担い手として居宅サービス利用の架け橋となり、安定したサービス利用へと繋がるよう体制作りに努めた。

活動していく中で、常に利用者の意思を尊重し、一つひとつのケアの質の向上に努めると共に、適切且つ効果的にサービスが行なえるよう取り組んだ。また、引き続き相談支援事業者や他の居宅支援事業所との連携（サービス相談や情報共有など）にも努めた。

登録スタッフ数を確保できなかっただけ、むつみグリーンハウスから3名の職員に兼務してもらい、安定したサービス提供を継続できた。職員不足からの事であったが、お互いの仕事内容の相互理解へと繋がった。スタッフ数の減少や主要スタッフの不慮のアクシデントなど様々な要因により、昨年度に比べてサービス量は減少したが、既存の非常勤スタッフや兼務スタッフの助けもあり、シフト調整等に苦慮しつつも乗り切ることのできた一年であった。

『安心・安全なサービス』を心掛けている成果の表れとして、大きな事故に至ることもなく、本人やご家族よりお褒めの言葉を戴くことがあった。

集団外出では、アンケートに基づきニーズの高い企画を充実させるなどの工夫を行なったことにより、利用者の方の普段とは違う一面も垣間見られた。一人でも多くの利用者の方が参加できるよう考慮し、余暇の充実を図れるように努めた。年度を通して、大きなトラブルになることもなく計画通りでの実施となった。参加した利用者の方からは、「皆とまた外出したい」などの声があり、ご家族の方からも好評の声が寄せられ、企画をした成果は得ることができた。

事業実績としては、新規契約者1名、年度途中で施設入所等の理由による契約終結者が5名であった。新規のサービス利用に伴う相談も各所から寄せられたが、受け入れ可能な時間帯等ではなく新規サービス利用者の開拓へとは至らず契約者数とともにサービス件数についても減少するという結果となった。

2、各取り組み

① スタッフ研修

外部研修への参加はなかったものの、月1回時間を設けて、1年通して継続して取り組んだことにより、少人数ではあったがスタッフ間での意見交換の場となった。そして、今後非常勤スタッフに対して情報提供・共有を図る中で、育成に反映していくべきなのが課題ともなった。

また、外部講師を招いて介護保険制度についても学ぶことができ、今後の事業展開を模索していく中での貴重な機会ともなり、有意義な研修となった。

利用者の余暇の充実をねらいとして企画する集団外出は、普段は交流のない登録スタッフにとっては意見交換や支援方法のアドバイスを他のスタッフからもらえる貴重な場となる。そのため、この集団外出の機会を登録スタッフには研修の一環として位置づけている。今年度も効果的な意見交換の場とはなった。例年参加可能なスタッフが同じになってしまふ課題ではあるが、企画ごとに利用者の方との関わりかたや組み合わせを変えるなどの工夫をして実施した。

《集団外出の状況》

7月：『半日外出』

第一弾 利用者4名・スタッフ5名の計9名で、ノリタケの森への外出

10月：『市外へ出かけよう』

利用者5名・スタッフ9名(運転手含め)の計14名で、ミツカンミュージアムへの外出

12月：『クリスマス会』

利用者5名・スタッフ7名の計12名で、むつみ交流室にて調理〔絵文字パンケーキ〕

1月：『お楽しみ会』

カラオケ外出〔JOYJOY 金山セガ店〕

第一弾 利用者5名・スタッフ6名の計11名

3月：『お楽しみ会』

カラオケ外出〔JOYJOY 金山セガ店〕

第二弾 利用者3名・スタッフ3名の計6名

『半日外出』

第二弾 利用者4名・スタッフ6名の計10名で、名古屋城への外出

② ヘルパー募集

立ち上げ当初より課題となっている登録ヘルパーの確保についても、引き続き取り組んだ。ハローワーク等での法人内の他事業との連携を図っての継続した求人募集、学区内町内での回覧板とともに主な利用者の居住周辺地区での新聞折り込みチラシでのヘルパー募集を行なった。

チラシを用いての求人募集では効果があり、若干数のスタッフを確保することに至

った。しかし、年度途中で離職したスタッフもいて結果的にスタッフ数の補充には至らなかった。また、今年度は新たな試みとして、郵便局内でのポスター掲示（2週間・有料）を近隣の主要郵便局にて実施をしたが、大きな改善にはつながらなかった。

ハローワークや募集チラシ等の効果により、求人への応募はあったが、年齢層が高めの方の申し込みがほとんどで、面接（施設見学）を終えた時点で辞退される方や、こちらからお断わりをせざるを得ず、登録へとは繋がらなかった。今後も継続してチラシを用いての募集を中心に登録スタッフの募集を行なっていくとともに、中長期的に安定したスタッフ数を確保できる礎を構築していくよう取り組んでいく。

3、事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	31	30	30	29	29	28	28	27	28	28	27	27	27
利用実績	25	24	27	24	24	22	22	22	24	21	20	22	277 (325)
<内訳>													
(居宅介護)	16	15	15	15	15	14	14	14	14	14	13	13	172 (204)
(重度訪問介護)	15	15	17	14	14	12	14	13	17	13	12	14	170 (186)
(行動援護)	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	11 (8)
(同行援護)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12 (17)
利用のべ件数	232	241	248	191	216	203	219	210	216	196	193	232	2,597 (3,311)
提供のべ時間数	390	406.5	402.25	304.25	335.5	325.25	386.25	360	365	310.5	309.5	389.5	4,284.5 (5,155.5)
登録ヘルパー数	16	16	16	15	15	14	14	15	15	15	16	15	15

※ () は、27年度実績

4、事業の対象者

身体障害	知的障害	障害児	精神障害
25 [8]	19 [2]	0	0

※ [] 単独手帳所持者

5、事業の実施地域(名古屋市全域)

中区	中川区	昭和区	西区	港区	計
9	3	2	1	2	
熱田区	千種区	中村区	守山区	北区	
1	3	3	1	2	27

【なごみ移動サポートセンター】事業報告

1、総論

事業を展開していくにあたり、『安心・安全なサービス』を心掛けながら、名古屋市（中区を中心）に住んでいる障がい児・者が住み慣れた地域で安心した日常生活を営むことができるよう、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づく地域生活支援事業における移動支援サービスを行なった。

新たなサービス利用等の相談を円滑に行なえるように取り組むとともに、地域生活支援の担い手としてサービス利用の架け橋となるよう体制作りに努めた。

活動していく中で、常に利用者の意思を尊重し、一つひとつのケアの質の向上に努めると共に、適切且つ効果的にサービスが行なえるよう取り組んだ。また、引き続き相談支援事業者や他の居宅支援事業所との連携（サービス相談や情報共有など）にも努めた。

今年度は送迎サービス中に利用者様が転倒され、頭部を負傷する事故があった。軽傷であったことや事後の対応が迅速であったことなどから、ご家族からはスタッフに対する労いの言葉と「これからも継続して支援をお願いしたい」と温かいお言葉を戴く結果になった。大小問わず事故はあってはならないものであり、今後も事故がないよう努めしていく。

アンケートに基づきニーズの高い企画を充実させるなど企画内容を工夫し、集団外出を年間を通して定期的に実施した。また、一人でも多くの利用者の方が参加できるよう考慮し、余暇の充実を図れるように努めた。参加した利用者の方やご家族からも好評の声が寄せられ、企画をした成果は得ることができた。利用者同士での交流を図る機会となり、利用者の方の普段とは違う一面も垣間見られた。

事業実績としては、新規契約者はおらず、支給内容の変更や介護保険への移行に伴っての契約終結者2名であった。利用実績については増加となつたが、全体的に減少へと至つた。

2、各取り組み

① スタッフ研修

外部研修への参加はなかったものの、月1回時間を設けて、1年通して継続して取り組んだことにより、少人数ではあったがスタッフ間での意見交換の場となった。そして、今後非常勤スタッフに対して情報提供・共有を図る中で、育成に反映していくべきなのが課題ともなった。

また、外部講師を招いて介護保険制度についても学ぶことができ、今後の事業展開を模索していく中での貴重な機会ともなり、有意義な研修となつた。

利用者の余暇の充実をねらいとして企画する集団外出は、普段は交流のない登録スタッフにとって意見交換や支援方法のアドバイスを他のスタッフからもらえる貴重な場となる。そのため、この集団外出の機会を登録スタッフには研修の一環として位置づけている。今年度も効果的な意見交換の場とはなつた。例年参加可能なスタッフ

が同じになってしまふ課題ではあるが、企画ごとに利用者の方との関わりかたや組み合わせを変えるなどの工夫をして実施した。

《集団外出の状況》

7月：『半日外出』

第一弾 利用者4名・スタッフ5名の計9名で、ノリタケの森への外出

10月：『市外へ出かけよう』

利用者5名・スタッフ9名(運転手含め)の計14名で、ミツカンミュージアムへの外出

12月：『クリスマス会』

利用者5名・スタッフ7名の計12名で、むつみ交流室にて調理〔絵文字パンケーキ〕

1月：『お楽しみ会』

カラオケ外出〔JOYJOY 金山セガ店〕

第一弾 利用者5名・スタッフ6名の計11名

3月：『お楽しみ会』

カラオケ外出〔JOYJOY 金山セガ店〕

第二弾 利用者3名・スタッフ3名の計6名

『半日外出』

第二弾 利用者4名・スタッフ6名の計10名で、名古屋城への外出

② ヘルパー募集

立ち上げ当初より課題となっている登録ヘルパーの確保についても、引き続き取り組んだ。ハローワーク等での法人内の他事業との連携を図っての継続した求人募集、学区内町内での回覧板とともに主な利用者の居住周辺地区での新聞折り込みチラシでのヘルパー募集を行なった。

また、今年度は新たな試みとして、郵便局内でのポスター掲示(2週間・有料)を近隣の主要郵便局にて実施をしたが、大きな改善にはつながらなかった。

ハローワークや募集チラシ等の効果により、求人への応募はあったが、年齢層が高めの方の申し込みがほとんどで、面接(施設見学)を終えた時点で辞退される方や、こちらからお断わりをせざるを得ず、登録へとは繋がらなかった。今後も継続してチラシを用いての募集を中心に登録スタッフの募集を行なっていくとともに、中長期的に安定したスタッフ数を確保できる礎を構築していくよう取り組んでいく。

3、事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	20	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18
利用実績	16	16	14	16	14	14	15	15	12	14	12	15	173 (168)
利用総件数	87	84	63	69	61	70	73	65	54	59	56	59	800 (1,042)
提供時間総数	138	132.5	102	114.5	93	114	142.5	119.5	95.5	106.5	95	116	1,369 (1,541)
登録ヘルパー数	16	16	16	15	15	14	14	15	15	15	16	15	15

※()は、27年度実績

4、事業の対象者

身体障害	知的障害	障害児（知的）	精神障害
7 [1]	15 [9]	1	1

※〔 〕単独手帳所持者

5、事業の実施地域（通常の事業の実施地域：名古屋市中区）

中区	昭和区	港区	東区	中川区	熱田区	守山区	計
9	1	3	1	1	2	1	18

【障害者相談センター 一歩】事業報告

1、総論

2名の職員のうち、兼務職員であった1名が4月より専任職員となった。そのため、(兼務職員では不可能だった)むつみグリーンハウスに通う利用者の計画相談の立案が2名ともが可能になり、新たに業務分担できる環境となった。しかし、それぞれの業務に追われることが思いのほか多く、複数体制での情報共有・連携については更なる努力と工夫、意識改革が必要であることが課題となった。それでも相談し合える環境ができるように努め、新規の利用者様の契約の受け入れを行なうことができた。

2、基本相談

利用者や関係機関からの相談に基づき、福祉サービスの情報提供や調整等を行なう基本相談も行なった。その中でもヘルパー利用の相談が最も多く、各事業所の人手不足とのミスマッチでなかなか成就しないという課題が残った。

相談内容も多岐にわたり、必要があれば利用者のご自宅や生活されている施設やグループホームなどへの訪問も行なった。また、ここ近年は精神障害がある方からの相談が増加傾向にある。

3、計画相談など

計画相談支援を行なう際は、障害者基幹相談支援センター、保健所、区役所、医療関係や事業所との連携に努め、利用者様本位の計画作成を心掛けた。サービス更新のための計画相談を中心に、生活環境の変化や身体状況の変化に伴うサービス変更の計画作成も行なった。変更のタイミングが同じ時期に集中する傾向があり、繁忙期は時間のやりくりに苦慮することも多くあった。

4、その他

支援に必要な情報収集・共有については、中区自立支援連絡協議会の相談支援部会に毎月参加し、同じ特定相談事業所の状況や課題を共有し、業務の見直し・改善に努めた。

研修・スキルアップの機会としては、法人内で中区障害者基幹相談支援センターと相談支援部門として隔月研修に参加した。研修内容は主に事例検討で、様々な意見を出し合うことで、自分とは違う視点からの物の見方やアセスメントで聞き取れていない部分があることの気づき、また発表を通して相手にどのように伝えたらよいのか、相手はどのように感じたのかなど様々なことを考える機会となった。

その他に利用者様が利用されている通所施設や短期入所施設、将来の生活の場として考えている入所施設やGHなど情報を伝えられるように、種別ごとに事業所見学を行なった。このような経験を活かし、より利用者様のニーズに合わせたサービスが行なえるよう努めていく。

計画作成(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	2	5	12	10	7	7	8	9	12	11	11	104

モニタリング(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	13	13	15	14	21	6	8	14	19	16	24	173

契約者地域(名古屋市)

中区	昭和区	瑞穂区	熱田区	中川区	港区	中村区	西区
51	4	5	3	8	8	4	8
北区	東区	千種区	緑区	天白区	名東区	守山区	南区
3	2	5	1	4	0	3	2

名古屋市以外

東海市	あま市
1	1

障害種別

身体障害者	知的障害者	精神障害者
80	18	15

(表は平成 29 年 3 月 31 日現在の数字)

【中区障害者基幹相談支援センター】事業報告

1 事業提携（スーパーバイズ契約）

平成 28 年度も引き続き、精神障害に対する専門的な対応が行なえるような体制確保のため、「鶴舞メンタルクリニック」とスーパーバイズ契約を結び、相談支援の強化に努めた。ソーシャルワーカーが週 3 日（月、火、木）常駐できる環境を整え、各ケースにワーカーが同行でき、必要な指導や助言を受けられるよう工夫した。また精神障害分野の研修における講師（相談支援部会での助言や法人内での研修として隔月、一歩と合同で研修会を実施）なども依頼でき、精神障害のある方の相談を大きな混乱・トラブルなく対応することができた。

2 事業内容 ※29 頁参照

（1）総合相談

全体の相談状況としては昨年に引き続き「福祉サービスの利用などに関する支援」の相談内容が一番多く、また精神障害の方の相談が多かったこともあり「不安の解消・情緒安定に関する支援」の伸びが顕著だった。

相談者数は年々増加傾向にあり、昨年に引き続き年間累計数が 300 件を超えた（平成 27 年度 321 件）。その中でも特に「精神障害」の相談件数の増加が顕著で、年間累計としても精神障害と発達障害を合わせると約 50% の割合を占めた。また、毎月の相談者数の内、新規相談の約 50% が精神障害という状況であった。

（2）処遇困難な障害者（児）への相談支援（計画相談）

サービス等利用計画の契約者数は昨年と比べ大きな変化はない。生活が安定した方については特定相談事業所へ引き継ぎを行ないつつ、新規利用者の対応ができるよう体制を整えた。

処遇困難なケースは、そのほとんどがサービスに結びつかず、生活の基盤が安定しない。また、このようなケースは犯罪に巻き込まれるなど複雑なケースも多く、行政機関も含めた複数の相談機関との連携が必要な状況である。

【サービス等利用計画】

平成 29 年 3 月末現在 契約者数 19 名

（中区 18 名、中村区 1 名）

身体障害 11 名

知的障害 4 名

精神障害 4 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画案	3	1	4	3	2	3		1	3	1	3	24	
本計画	3	2	1	3	1	3	3		1	1	1	19	
モニタリング	9	7	13	6	6	13	6	7	13	3	7	10	100
合計	15	10	18	12	9	19	9	8	17	4	8	14	143

平成 27 年度 合計実績 142 件

平成 26 年度 合計実績 162 件

平成 25 年度 合計実績 52 件

(3) 地域環境作り（人材育成）※30 頁参照

中区障害者自立支援連絡協議会では「ネットワークの強化」「啓発」「個別支援の強化」を柱に、協議会の構成を「全体会」「運営会議」「専門部会」に分け、年間45回の活動を行なった。27年度に引き続き「課題の集約・整理・検討」に力を入れ、その課題を東ブロック会や名古屋市自立支援協議会検討会（仮称）に上申するなど、課題を改善するための「仕組み作り」を行なった。

児童の分野については、区内に児童を対象とした事業所が少なく、部会の編成が困難なことから、昭和区の自立支援連絡協議会（児童部会）へ引き続き参加をした。

また、中区役所福祉課発行の「車いすお出かけマップ」、中区内の作業所が集まり運営を行なっている「なかよしマーケット」については、他機関の活動に対し協議会として協力を行なった。

人材育成については、「相談支援部会」を中心に各相談機関が直近で困っているケースについて協議をしたり、必要に応じ研修会を実施する等の活動を行なった。また、集団で共有・検討が困難な内容については、各特定相談事業所へ基幹相談支援センターが直接訪問し、個別に相談できる場を設定する等の対応を行なった。

市自立支援協議会（仮称）検討会 計 5 回

6月 28 日	8月 2 日	9月 12 日	11月 15 日	1月 16 日
---------	--------	---------	----------	---------

(4) 地域移行・地域定着支援

平成28年度は1年以上精神科病院に入院している方の支援として、2件の対応をした。現在も退院に向け、本人、家族、病院のドクター、PSW（ワーカー）等と相談しながら、外出・外泊の訓練を行なったり、住む場所を見学する等の支援を継続中である。

地域移行・地域定着支援を推進するにあたり、対象者の把握や各医療機関とのネットワーク構築のため、「もりやま総合心療病院」「愛知県精神医療センター」を訪問した。また、あかもん（精神障害者地域活動支援事業）開設時の対象者の確認を行ないました。

さらに中区内の地域課題でもある「医療との連携」「精神障害、発達障害のある方への対応」に対応するため、PSW（ワーカー）の自立支援連絡協議会への参加・協力の依頼（ネットワークを強化）を行なった。

(5) 権利擁護

平成 28 年 4 月より施行された「障害者差別解消法」について、地域の関係機関や地域住民に対して広く周知、理解を深める取り組みとして「名古屋市障害者差別相談センター」の職員を自立支援連絡協議会に招き、研修会を 2 回実施した。

また、障害者・認知症高齢者権利擁護事業（日常生活自立支援事業）についても地域の関係機関や地域住民に対して広く周知、理解を深められるよう「障害者・高齢者権利擁護センター」の職員を自立支援連絡協議会に招き研修会を実施した。

虐待相談の実績は、虐待を疑われる相談受付件数が 3 件、差別相談については 0 件という状況であった。

【虐待相談件数】

受付件数：3 件

<u>平成 27 年度受付件数</u>	<u>0 件</u>
<u>平成 26 年度受付件数</u>	<u>2 件</u>
<u>平成 25 年度受付件数</u>	<u>0 件</u>

(6) 障害支援区分認定調査

平成 27 年度は名古屋市の更新者の多い年度であったことから、北区（緑区は 1 件）の調査についても協力をしたが、平成 28 年度は中区中心の調査範囲であった。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
中区 (区役所)	8	4	8	8	12	13	8	9	7	7	7	8	99
中区 (保健所)	6	5	4	5	5	3	6	8	2	3	7	6	60
合計	14	9	12	13	17	16	14	17	9	10	14	14	159

<u>平成 27 年度実績</u>	<u>218 件</u>
<u>平成 26 年度実績</u>	<u>160 件</u>
<u>平成 25 年度実績</u>	<u>92 件</u>

(7) 障害者賃貸住宅入居等サポート事業による入居支援

生活保護を受けている単身者の方からの相談が多く、「37,000円以内の家賃」「生活保護」といった条件で区内を探すと物件がなかなか見つからない。特に身体障害の方で「エレベーター」「バリアフリー」といった条件が追加すると更に困難になり、物件探しが長期化する傾向にある。

実績：3件

<u>平成27年度実績</u>	<u>1件</u>
<u>平成26年度実績</u>	<u>2件</u>
<u>平成25年度実績</u>	<u>1件</u>

(8) 障害者自立支援配食サービスのアセスメント等

難病の方も配食サービスの対象になったが、実績はなかった。その他の件数も前年度に比べ大きな変化はなかった。

	身体	知的	精神	難病	合計
新規	2	1	5	0	8
再アセスメント	10	3	2	0	15
合計	12	4	7	0	23

<u>平成27年度実績</u>	<u>26件</u>
<u>平成26年度実績</u>	<u>21件</u>
<u>平成25年度実績</u>	<u>21件</u>

(9) 障がい者サロン（よりみちサロン、ふれんす）

障害者サロンについては、「よりみちサロン」「ふれんす」の2つの活動を中心に、地域の在宅障害児・者の余暇の充実と障害の啓発を目的に活動を行なった。

【よりみちサロン+ふれんす】 月1回（第4土曜日） 開催回数（12回）

日時	活動内容	日時	活動内容
4月23日	創作活動（鯉のぼり、かぶと作り）	10月31日	フラリ工散歩
5月28日	むつみ祭り準備	11月26日	クリスマス会準備
6月11日	むつみ祭り（ジュース、ビール販売）	12月24日	クリスマスパーティー
7月23日	御坊夏祭り練習（バルーン作り）	1月28日	日帰りバス旅行（いこいの農園）
8月20日	御坊夏祭り（バルーン作り）	2月25日	ゲームなど
9月24日	調理（餃子作り）	3月25日	平成28年度振り返り 平成29年度の活動について

【ふれんす】8回

日時	活動内容
4月4日	ボラネットなかまんなか連絡会①
5月11日	ボラネットなかまんなか総会
6月22日	ボラネットなかまんなか連絡会②
8月1日	ボラネットなかまんなか連絡会③
8月29日	ボラネットなかまんなか連絡会④
10月3日	ボラネットなかまんなか連絡会⑤
12月16日	ボラネットなかまんなか連絡会⑥
3月6日	ボラネットなかまんなか連絡会⑦

(10) その他の活動

基幹相談支援センター関係の活動としては、「障害者基幹相談支援センター運営・調整会議」「東ブロック会」を中心に、「相談支援従事者初任者研修のファシリテーター」「研修講師」「介護ロボット普及モデル事業」などに協力することで、名古屋市全体の情報収集や課題の分析、相談支援専門員の養成や特定相談事業所とのネットワーク作りなどの活動に努めた。

また、新たに「高次脳障害者地域生活援助者養成研究事業」にも参加・協力し、高次脳機能障害のある方が地域で安心して暮らせる支援手法（システム作り）に対する協力をを行なった。

地域活動としては昨年度と同様に「中区地域福祉活動計画」「中区ボランティア・NPO応援助成審査会」「特別支援学校卒後対策連絡協議会」「中区福祉教育連絡会」「学区の研修会講師派遣」などに参加・協力し、地域福祉の推進に努めた。

【基幹支援センター関係会議等】25回

日時	内容	日時	内容
4月25日	名古屋市障害者相談支援従事者研修初任者クラス ファシリテーター①	10月26日	第3回障害者基幹相談センター運営・調整会議
4月26日	名古屋市触法障害者支援情報交換会①	11月10日	東ブロック会④
5月13日	東ブロック会①	11月16日	介護ロボット普及モデル事業 ワークショップ①
5月27日	第1回障害者基幹相談センター運営・調整会議	12月20日	名古屋市障害者相談支援従事者研修中堅者クラスⅠ書記
6月28日	名古屋市触法障害者支援情報交換会②	12月26日	第4回障害者基幹相談センター運営・調整会議

6月29日	高次脳機能障害地域生活援助者養成研修 事例経過報告会	1月18日	介護ロボット普及モデル事業 ワークショップ②
7月7日	東ブロック会②	1月20日	東ブロック会⑤
7月25日	第2回障害者基幹相談センター運営・調整会議	1月25日	名古屋市障害者相談支援従事者研修中堅者クラスⅡファシリテーター
8月30日	名古屋市触法障害者支援情報交換会②	1月28日	高次脳機能障害地域生活援助者養成研究事業全国研修会
9月9日	東ブロック会③	2月27日	東ブロック会⑥
9月27日	平成27年度愛知県相談支援従事者初任者研修ファシリテーター①	3月1日	名古屋市障害者相談支援従事者研修初任者クラスファシリテーター②
10月24日	平成27年度愛知県相談支援従事者初任者研修ファシリテーター②	3月22日	第5回障害者基幹相談センター運営・調整会議
10月25日	平成27年度愛知県相談支援従事者初任者研修ファシリテーター③		

【地域の活動】10回

日時	活動内容	日時	活動内容
6月24日	特別支援学校等卒後対策連絡協議会	10月20日	中区地域福祉活動計画作業部会③
6月21日	中区地域福祉活動計画作業部会①	12月14日	中区地域福祉活動計画作業部会④
6月25日	中区ボランティア・NPO応援助成審査会	1月18日	千早学区民生委員・児童委員協議会 研修会講師派遣
6月29日	中区地域福祉活動計画推進委員会①	2月23日	中区地域福祉活動計画推進委員会②
7月27日	中区地域福祉活動計画作業部会②	2月17日	中区福祉教育連絡会

(11) 研修

法人内研修については、基幹相談支援センター単独で実施したものを年8回、法人内の相談支援事業所と合同での研修を年6回行なった。事例検討を中心に行なったが、研修スタイルも徹底した。毎回、司会や書記（ホワイトボードへ記入）、事例提供者などに役割を振り分け、各職員がそれぞれの役割で求められるスキルを身に付けられるよう努めた。

外部研修は、法人内の研修では補えない専門的な知識や技術について学べるよう、必

要に応じて参加した（年間 29 回）。

【法人内研修】基幹相談支援センター 8回

日時	活動内容	日時	活動内容
8月18日	事例検討会 「知的障害」	12月14日	名古屋市中堅者クラス研修会 「提出事例確認」
9月14日	事例検討会 「知的障害」	1月11日	名古屋市中堅者クラス研修会 「振り返り」
10月12日	事例検討会 「統合失調症」	2月8日	事例検討会 「統合失調症」
11月9日	事例検討会 「発達障害」	3月8日	事例検討会 「統合失調症」

【法人内合同研修】（基幹相談支援センター+障害者相談センター一歩） 6回

日時	活動内容	日時	活動内容
5月24日	事例検討会 「不安神経症 うつ病 パニック障害」	11月15日	事例検討 「高次脳機能障害」
7月19日	事例検討会 「知的障害」	1月17日	事例検討会 「デュシエンヌ型筋ジストロフィー」
9月15日	事例検討会 「広汎性発達障害」	3月15日	平成28年度研修振り返り 平成29年度研修計画

【外部研修】29回

4月18日	障害者虐待相談職員研修会	9月7日	重度身体障害者の在宅就労を学ぶ
4月25日	名古屋市障害者相談支援従事者研修初任者クラス①	9月30日	障害者差別相談窓口従事者向け研修（入門編）
5月24日	障害者虐待相談職員研修会	11月14日	名古屋市障害者相談従事者研修会専門研修「発達障害について」
6月7日	社会福祉施設職員研修 新任職員基礎研修	12月1日	名古屋市相談支援従事者研修「子ども応援委員会との連携」

6月20日	障がい者福祉制度研修 「障がい者差別解消法の理解 人権問題の枠として支援を考える」	12月1日 1月23日	ひきこもり支援セミナー
7月1日	障害者技術研修「自閉症の特性を踏まえた行動のアセスメント」	12月8日	精神障害者地域移行・地域定着支援推進研修
6月27日 6月30日 7月1日 7月21日 7月22日	愛知県相談支援従事者研修 (現任研修)	12月22日	経営者・施設長セミナー①
7月11日	若年性認知症相談職員向け研修会	1月16日	高齢者・障害者職員研修
7月14日 8月4日 11月18日 3月10日	名古屋市障害者相談支援従事者研修会(全体研修) 「名古屋市高齢者の見守り支援事業」「地域包括支援システム」「精神障害者支援の基礎的な内容」「事例検討」	1月24日	経営者・施設長セミナー②
7月13日	名古屋市総合リハビリテーションセンター説明会	2月8日	愛知県医療観察制度運営連絡協議会
7月21日	盲人用点字図書館サービス説明会	2月16日	住宅改造・福祉用具セミナー
7月26日	障害者虐待相談職員研修会		

3 精神障害者地域活動支援事業（あかもん）立ち上げ

平成29年度開所に向け、現在基幹センターとして使用している建物の2階の2部屋、3階の1部屋を、山村ビルオーナーや仲介業者的小林土地のご理解と協力を得ながら借りることができた。

結果、1階部分を精神障害者地域活動支援事業、2階、3階を基幹センターと精神障害者地域活動支援事業の事務所として計画し、3月6日の評価委員会からの意見聴取会に臨み、平成29年4月1日付での登録に至ることができた。

事業内容報告書

中区障害者基幹相談支援センター (計)

(年度累計・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人數	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	319	116	2	70	127	22	9	16
障害児	14	8	2	11	0	3	0	1
計	333	124	4	81	127	25	9	17

難病患者(その他の再掲)	2

支援内容・方法

	福祉サービスの利用に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情操安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族間人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に支援する支授	社会参加・余暇活動による支援	権利擁護に関する支援	その他	計
訪問	234	7	16	20	0	0	2	9	3	0	1	8
同行	50	0	26	1	1	0	16	2	1	1	0	5
個別支援会議	40	0	1	0	3	6	0	0	2	0	2	54
関係機関調整	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
その他	19	2	5	2	0	0	0	0	19	1	152	200
小計	360	9	48	23	4	6	18	11	6	20	4	165
来所	171	74	25	132	0	20	28	14	34	74	9	106
電話	880	18	206	497	19	67	30	17	50	41	16	190
電子メール	132	1	0	8	3	2	3	2	1	1	0	66
小計	1183	93	231	637	22	89	61	33	85	116	25	362
計	1543	102	279	660	26	95	79	44	91	136	29	527
ヒアリング(再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成28年度 中区障害者自立支援連絡協議会開催状況

全体会(計2回)

6月2日 11月21日

- ・活動報告(平成27年度、平成28年度前期)
- ・各種情報提供(新規参入事業所紹介、中区役所より)
 - ・基幹相談支援センターの事業内容について
 - ・研修会「障害者・認知症高齢者権利擁護事業(日常生活自立支援事業)について」
 - ・研修会「障害者差別解消法(名古屋市差別相談センター)について」

運営会議(計16回)

- | | | | | | |
|--------------------|------|-------|--------|--------|-------|
| 4月11日 | 6月3日 | 8月24日 | 10月21日 | 12月16日 | 2月13日 |
| ・社会資源情報確認 | | | | | |
| ・各部会報告 | | | | | |
| ・市船議会検討会について(課題確認) | | | | | |
| | | | | | |

- | | | | | | | |
|------------------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 4月19日 | 6月21日 | 7月19日 | 9月20日 | 10月18日 | 11月15日 | 12月20日 |
| ・事例検討会 | | | | | | |
| ・研修会「日赤救急研修、ノロウイルス等感染症対策、障害者虐待防止法」 | | | | | | |
| ・見学会「中央療育センター」 | | | | | | |
| | | | | | | |

提案・報告



課題

- ・医療機関(ドクター含む)との連携(精神科)
- ・専門性の高いサービス(行動援助、同行援護、同行接護)の確保が困難
- ・朝、夕などサービスが重なる時間帯のヘルパーの確保が困難
- ・高齢で保証人がない方の賃貸物件探し
- ・高齢者と障害者の世帯で暮らせる住居探し(賃貸、入所施設)
- ・自殺傾向のある方への対応(精神疾患)
- ・介護保険移行に伴う制度の理解と当事者への説明
- ・緊急時の対応(見守り体制、身元保証、ショートステイ・入所施設の空がない等)
- ・借金のある方への支援(金銭管理)
- ・グループホームの確保が困難
- ・地域移行(病状に合わせた退院後の生活の場等)
- ・発達障害のある方への支援(部屋の片づけ等)

計45回+なかよしマーケット+昭和区児童部会

平成28年4月1日～平成29年3月31日

<専門部会>

- | |
|---|
| 相談支援部会(計12回)<相談支援の強化> |
| 4月4日 5月9日 6月6日 7月5日 8月1日 9月5日 10月3日 11月8日 12月5日 1月10日 2月6日 3月6日 |
| ・社会資源情報の確認 |
| ・各相談機関の近況及び情報共有 |
| ・通所施設、ヘルパー事業所の空き状況確認 |
| ・研修「介護保険移行について」 |
| |

- | |
|--|
| 福祉ふれあいサポーター部会(計13回)<障害の理解に対する啓発> |
| 5月20日 7月29日 8月29日 9月13日 9月15日 9月16日 10月6日 10月29日 11月12日 11月24日 12月15日 2月21日 3月7日 |
| ・第4回中区安心・安全・快適なまちづくり大会(老松小学校) |
| ・講演会・見学会「高次脳機能障害について知ろう」～どんな障害?どのように支えていけばよいのか?～ |
| ・講演会「ご存知ですか?障害者差別解消法」 |
| |

- | |
|---|
| 広報部会(計7回)<福祉サービスの広報> |
| 5月25日 7月14日 8月16日 9月20日 11月2日 1月12日 3月10日 |
| ・平成28年度ガイドブック更新活動 |
| ・ハリアリーマップ検討 |
| ・平成29年度ガイドブック更新について |
| |

- | |
|--|
| ネットワーク部会(5回)<ネットワークの強化> |
| 6月23日 8月25日 11月25日 12月21日 3月21日 |
| ・見学会「リオワーカス」+交流会(精神科訪問看護の仕組みと実際) |
| ・見学会「はつとー息」+交流会(事例報告会)「はつとー息の実践～発達障害の利用者を中心につけて」 |
| ・見学会「リオスマイル」+交流会(情報交換会)「各事業所の地域交流の現状について」 |
| ・児童系施設顔合わせ |
| ・見学会「スマイルプラス名古屋伏見センター」+交流会(事例検討会)「発達障害のご利用者間でのコミュニケーション支援」 |
| |

- | |
|--|
| なかよしマーケット(計16回) |
| 4月12日 4月26日 5月10日 5月24日 6月14日 6月16日 6月28日 7月12日 7月26日 8月9日 8月23日 9月13日 9月27日 |
| 10月11日 10月25日 11月8日 11月22日 12月13日 12月27日 1月10日 1月18日 1月24日 2月14日 2月28日 3月14日 3月28日 |
| ・中区役所1階口 billionaireにて製品販売 |
| ・会議 |
| |

【名古屋市重症心身障害児者施設(通称：ティンクルなごや)】事業報告

1 はじめに

本年度の稼働実績は年間平均で 46.0 床。29 年 3 月末時点で長期入所 51 名、短期入所 4.3 名だった。長期入所者のうち、有期限利用者が 4 名あった。成人の有期限利用については短期入所で行うという名古屋市の制度理解があり、1 ~ 数か月の安定した利用を提供することが困難となる要素になっている。

年度末に 100% 稼働に近づけることを目標としたが、新規の入所希望が少ないとこと、短期入所については 7 床をめどに運用したことと上記の結果となった。

一方、職員の充足状況は 29 年 4 月 1 日時点で看護師 55 名(94%)、生活支援員 38 名(84%) だった。昨年度平均では看護師 49 名(85%)、生活支援員 36 名(80%)

職員数一覧表

	医師			看護師	生活支援員	PT/OT/ST		その他		計	
	常勤	非常勤	常勤換算			常勤	常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
27/5	2	7	5.1	49	34	4		10	5	99	12
28/4	2	7	5.7	55	38	3	1	11	10	109	17
差異			0.6	6	4	-1	1	1	5	11	5

2 入所者の概要

利用状況一覧表（施設入所）（当月 1 日時点）

	延べ 入所数	18歳未満		新規 入所者 数	実 入 所 者 数	18歳以上								経管栄養	学校教育	措置入所者数
		18歳未満	18歳以上			18歳未満	18歳以上	超重症児者数	準超重症児者数	呼吸管理	人工呼吸器	気管切開				
27/4	1059	147	912	1	37	6	31	4	11	11	4	7	23	2	0	
28/3	1553	181	1372	2	50	6	44	9	11	13	7	6	31	4	0	
差異	494	34	460	1	13	0	13	5	0	2	3	-1	8	2	0	
平均	1250	174	1076	1.6	41.7	6.1	35.6	6.8	10.6	11.9	6.0	5.9	26.2	3.0	0.5	

他病院受診件数及び入院の実績

耳鼻科	眼科	内科	皮膚	小児	整形	その他	合計	入院日数	入院件数
24	8	19	30	13	7	27	128	441	30

* 入院が複数月にわたる場合は月ごとに 1 件として算出。

* 歯科受診 未

3 共通理解と多職種連携の強化

管理者会議（主任以上）においては、ティンクルなごやの基本的資料である理念、基本方針をはじめとして職員行動規範、支援のガイドライン、運営規程及び重要事項説明書等の確認作業を行い、課題意識の共有化を図ってきた。

また、個別支援計画では、医師、リハビリ部門を加えた多職種によるカンファレンスの定期化を図ってきた。

しかしながら、年度末における各部門の反省からは、チーム内、他部門、多職種等の各レベルでのコミュニケーション、共通理解の困難さが課題として挙げられており、引き続きこの課題に取り組む必要を確認することになった。

今年度も引き続き職員の力量を高めるために各種の研修を実施した。

自主研修制度を活用し、各種の外部研修に参加した者も多かった。また内部研修では、医療安全、虐待防止、権利擁護などのほか栄養に関するものなど自主的な研修も実施した。

4 利用者の生活の充実

5月には1周年を記念してウェルネスガーデンを会場としたティンクル春祭りを実施した。地域との交流を意図したものであり、名古屋市健康増進課、保護者会、守る会やボランティアなどの協力をいただいた。周辺4学区への回覧、呼びかけも行った。地域ぐるみのイベントになるにはまだまだ時間がかかりそうだ。

12月には、クリスマス会を実施した。全員参加を目指したが、あいにく感染症が発生し、一部フロアからは参加できなかった。会場の広さ、感染対策等、開催時期や開催方法について課題が明らかになった。

上記のほか、ボランティアによる音楽会を実施したほか、フロアでは季節イベントを積極的に実施した。

また、2階では学齢グループを対象とした「ティンクルクラブ」も活動を開始した。

今年度は施設内での活動が中心で、外に出かける機会は十分に提供できなかった。リフト付きワゴン車の有効活用など出かける機会の提供は次年度の課題となった。

成長期にある子供たちの発達を促し、地域社会での経験をゆたかにすることなどを通じて、家族との生活に戻ることの可能性を広げることを目指す。

未就学児の療育センター通所は施設として取り組むことをせず、家族の自主性に任せた。就学児童は当初2名、最終的には4名、通学は学校、保護者、施設間の調整が不十分であったため、全員が訪問教育となった。ただし、校外活動や生活発表会などには家族同伴で参加し、施設も支援した。

5 保護者会との協力

今年度もたくさんの保護者が継続的な面会をされた。ネガティブに言えば、子離れできない親と任せるに値しない施設ということになるかもしれないし、そういう側面もないわけではない。しかし、こうした保護者の方たちの施設への関与はティンクルの財産である。

家族の面会状況(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
合計	404	385	405	456	417	498	576	579	548	548	556	641	601 3
平均	13.5	12.4	13.5	14.7	13.5	16.6	18.6	19.3	17.7	17.7	19.9	20.7	16.5
最大	24	28	20	27	22	25	26	36	40	36	28	30	40
最少	7	7	8	8	7	9	12	11	11	9	15	12	7

*面会者の中にはSS利用者家族も含まれる。

ごく限られた一部の利用者だが定期的な帰宅を実施した。(外泊5名252日)

平成28年1月に正式発足した保護者会は毎月1回の定例会を開催された。施設としても担当者が継続的に参加し、それ以外にも必要に応じて担当者が参加し、説明と意見交換の場として大切にしてきた。

定例会以外にも全体行事やフロアごとのイベントなどに多くの参加をいただき一緒に楽しむことが出来た。

1周年記念行事では模擬店の出店を、またクリスマスではツリーを寄贈していただいた。

6 利用者満足度調査(入所)

昨年に続いて利用者満足度調査を実施した。結果は37頁・38頁のとおりである。おおむね満足していただくことができているという評価とみることが出来るが、昨年に比べると、「よい」が若干減って、「まあまあ良い」が増えていうことが気になる。

7 短期入所

年間を通して10床の稼働を実現するには至らなかった。職員体制の不十分さもあるが、短期入所利用者のニーズの多様さに戸惑うことも多かった。ほとんどの利用者がいざというときのための保険と考え、不定期で短期間の利用となっており、利用者、受け入れ側ともに、経験の蓄積が困難であった。

短期入所受け入れマニュアルの見直しを行い課題の整理に取り組んだが、利用者の多様なニーズへの対応が十分ではない状況は変わらない。

希望者には、短期入所利用中に機能訓練を実施することも検討したが、年度途中で理学療法士1名が退職したことあって具体化するに至らなかった。

短期入所実績一覧（当月1日時点）

延べ利用者数	申込数	受付数	キャンセル数	実利用者数	超重症児者数	準超重症児者数	呼吸管理	人工呼吸器	気管切開	経管栄養	利用件数	超重症児者数	準超重症児者数	契約者数	
27/5	148			60	6	9	10	6	4	24	66	6	11	146	
28/3	158	164	188	30	61	3	9	8	3	5	19	65	3	9	193
差異	10				1	-3	0	-2	-3	1	-5	-1	-3	-2	47
平均	131	168	159	21	50	4	6	7	4	4	17	56	4	7	

8 重症心身障害児者支援センターを目指した取り組み

愛知県重症心身障害療育ネットワーク会議、同実務者会議、看護責任者会議にそれぞれ担当者が参加した。

豊田こども発達センター所長の三浦清邦先生をお迎えして、地域で医療的ケアを必要とする重症児者の支援に取り組む人たちを対象とした研修会を開催した。看護職・介護職など64名の参加者があり、継続的な研修機会を期待する声もあった。ティンクルなごやが地域の重症児者支援にかかわろうという意向表明の場となった。

愛知県身体障害者施設協議会の依頼により介護職のたん吸引等の実地研修を受け入れた。受講者は3名で、口腔吸引、気管カニューレからの吸引、鼻腔吸引が各2名、経管栄養が1名の実施であった。10名の利用者家族の協力をいただくことで実施できた。

9 短期入所アンケート集計結果

- ア 調査期間 平成28年1月16日～1月31日
- イ 調査対象 短期入所利用者（全て利用者の保護者が回答）
- ウ 調査内容 別紙（*38頁参照）
- エ 調査方法
 - ・調査票 短期入所利用者は全登録者に郵送
 - ・回収 郵送
- オ 回収率 短期入所利用者 53.3%（88人/165人）

回答状況

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
問1(頻度)	19	29	27	7				
問1(目的)	28	9	31	10	9	8	9	50
問2(予定)	77	1	3					
問3(頻度)	24	36	8	15	2			
問3(目的)	42	17	48	8	48	41	55	2
問4	0	0	1	0				

問5 回答者のうち「意見あり」が36名、「意見なし」が30名、「お礼のみ」が17名だった。「意見あり」の主な要望は以下の通り。

- ・職員体制について、毎回担当が変わること、職員同士の引継ぎが不十分
- ・持ち物に名前を書いたり、薬を1回ごとに分けたりする手間が多い。
- ・利用中に本人の楽しみがあることを希望する。
- ・利用者が増えて予約がとりにくい、3か月前では本人の体調などから予定が立てにくい。

今後の使い方について

- ・これからも安全安心を
- ・緊急時に使えるようにしておきたい。
- ・送迎があると嬉しい
- ・友人同士で利用、母親付添いのレスパイト、などの希望もあった。

肯定的に

- ・本人が楽しみにしている
- ・個別的な配慮をしてもらえた。
- ・困った時に助けてもらえた。

まとめ

月1回以上使いたいという希望は28%、万一の時というのが18%。利用希望理由の最も多いのはその他の緊急時、その次が介護者の幼児と介護者の病気である。在宅生活を日常的に支えるツールにはなっていないということがわかる。

一方で、自由記述では、短期入所中に本人の楽しみとなるものがほしいという意見が目立つ。本人が楽しみにしている、という意見もあるが、本人が少しでも楽しんでくれて入れば安心して預けられるということだろうか。

大変期待しているが、安心して任せられる、気軽に使えるというところまではまだいっていないということを受け止めている。

短期入所利用者アンケート

1. これまで、どんな時に、どのくらいご利用になりましたか。 (番号に丸を付けてください)
 どのくらい： ①月に1回以上・②年に数回・③年に1～2回・④万一の時に
 どんな目的で：①介護者のレスパイト・②兄弟の幼児・③介護者(家族)の用事・④介護者の仕事・
 ⑤介護者の病気・⑥冠婚葬祭等の行事・⑦他の緊急時・⑧お試し(複数回答可)
 2. 今後もティンクルなごやの短期入所をご利用する予定ですか。 (番号に丸を付けてください)
①利用する・②利用しない・③わからない
 3. 問2で「利用する」とお答えいただいた方は、どんな時に、どのくらいご利用する予定ですか。
 (番号に丸を付けてください)
 どのくらい： ①月に1回以上・②年に数回・③年に1～2回・④万一の時に・⑤わからない
 どんな目的で：①介護者のレスパイト・②兄弟の用事・③介護者(家族)の用事・
 ④介護者の仕事・⑤介護者の病気・⑥冠婚葬祭等の行事・⑦他の緊急時・
 ⑧わからない(複数回答可)
 4. 問2で「利用しない」とお答えされた方、その理由はなんですか。 (番号に丸を付け、四角の中に具体的にお書きください)
①他を利用している・②利用理由がない・③本人に合わない・④その他
 ①～④を選ばれた理由を具体的にお書きください。
- *利用しないとお答えになった方で、契約の解除をご希望の方は下記にお名前をお書きください。
 おなまえ_____
5. ティンクルなごやの短期入所についてご意見・ご感想等がありましたらお書きください。

以上

平成 28 年度 長期入所者利用者満足度調査結果

実施時期：平成 29 年 1 月 15 日～31 日

実施方法：各家庭に郵送→郵送または事務室にて回収 回答者数：30 家庭、回収率 $30/44 = 68\%$

1 選択式回答の結果

評価は部門別にお願いしたが、本州系は全部門を合算している。

	良い	まあまあ 良い	ふつ う	やや 悪い	悪い	わからない・ 無回答	有効回 答数	有効回答の 平均評価
支援の統一	41	16	25	3	2	34	87	4.05
支援内容	26	25	14	5	2	48	72	3.94
健康や清潔	18	7	4	1	0	0	30	4.40
ご本人の楽しみ	8	9	4	3	0	5	24	3.92
表情等への配慮	13	11	5	1	0	0	30	4.20
職員の関わり	13	7	8	1	0	1	29	4.10
居室の設備・備品	14	7	6	3	0	0	30	4.07
居室等の温度・湿度	14	8	4	2	1	0	29	4.10
居室等の明るさ	16	8	6	0	0	0	30	4.33
家族と過ごす場所	14	9	5	1	0	0	29	4.24
施設内の清潔の維持	18	9	2	1	0	0	30	4.47
穏やかに過ごせる場所	14	11	3	1	0	1	29	4.31
質問しやすい雰囲気	54	44	28	4	0	20	130	4.14
家族と過ごす時間への 配慮	52	46	24	2	0	26	124	4.19
家族への依頼の負担感	48	40	31	1	0	30	120	4.13
家族の意見尊重	57	37	33	4	1	18	132	4.10
説明のわかりやすさ	64	40	25	1	1	19	131	4.26
知識・技術向上	50	41	23	0	0	36	114	4.24
家族への態度	75	32	22	0	0	21	129	4.41
合計	1001	696	475	54	13	488	2239	4.10
評価者の回答の割合	44.7%	31.1%	21.2%	2.4%	0.6%			

(参考) 27 年度の長期入所者の評価と割合

※回答者数 16、設問数 27

満足・良い	ほぼ満足・ほ ぼ良い	どちらとも いえない	やや不満 やや悪い	不満・悪 い
186	101	20	14	1
57.2%	31.1%	6.2%	4.3%	0.3%

個別のご意見について

リハビリ	リハビリに関しては、以前はよく話を聞かせてもらいましたが現在はリハビリ担当の方と話ができていない状況です。しかし看護師さんに以前の方法で訓練してもらっています。
リハビリ	昨年12月末まで理学療法士が1人突然退職してしまい、後任がないまま1ヶ月が過ぎています。なるべく訓練士の方にふれてもらい少しでもQOLを高めてもらいたかったのに残念です。今後はこのようなことにならない様にしてもらいたいです。
保護者室 (家族宿泊室、 交流室)	保護者室が空いている時が多いと思いますが、入所者の保護者が自由に利用出来ないでしょうか。 仲間達に少しでも多く声かけをお願い致します。
外出	季候の良い時にもう少し外出の機会があれば楽しい時間が増えると願っています。
洗濯物	洗たく物が時々くちゃくちゃになっています。特に裾がもう少しきちんとしてほしいです。
温度	冬場の室内温度が高すぎる様に感じます。
結露	寒くなっているので難しいかもしれませんのが部屋の北側の窓に結露がつきすぎてカーテンがぬれる程です。先日は床まで水がたまる程でした。カビが心配です。
スペース	4人部屋の件でラジオ等少し物がおきたくても置く場所がなく困っています。
マットレス	マットレスが柔らかく寝返りがしにくいと思います
	部門についてですが医師と薬剤師と一緒にでは関わり方が違うので別々にして欲しいです。だからわからないに○をつけることになりました。